

精神分析と

狂気

2022年4月10日(日)14:00~17:00

@Zoom(定員100名)

この度、たちメンタルクリニック/上本町心理臨床オフィス開設10周年を記念して、オンライン・シンポジウムを開催することになりました。

先日、ある精神分析的なオリエンテーションを持った事例検討会で、参加者の一人が、この患者はどんな人なのか、と尋ねたのに対して、事例提示者が、身体化傾向を持った複雑性PTSDだが、基盤には自閉スペクトラム症があるかもしれない、と返答したのを聞いて、質問者は二の句が継げなかったといいます。しかし、今、私たちの臨床を取り巻く状況はそのようなものなのです。質問者は、その患者はどのように狂っているとあなたは思うのか、と尋ねればよかったのかもしれない。

そもそも精神分析は、Freud以来、はっきりとは明言されていないとしても、狂気を捉え、それに対峙しようとしてきたのだと思います。しかし、最近、そのことは見過ごされてきているようにも感じています。また、忘れてならないことは、狂気はどこにでもあり、様々な形を取っていますが、私たちのうちにもある、ということです。そのことをフランスの精神分析家André Greenは「私的な狂気」と呼んでいます。私たちは、患者の狂気に取り組みつつも、私たち自身の狂気にも対峙しなくてはならないでしょう。

さて、たちメンタルクリニックは、大阪の片隅で細々とやっている、精神分析的理解と臨床実践を目指したクリニックですが、この度、10周年を迎えることが出来ました。この機会に公開シンポジウムを企画しましたが、そのテーマとして「精神分析と狂気」を取り上げたのは、今一度、狂気について考えてみたいと思ったからです。

そこでシンポジストを、いずれも気鋭の臨床家である十川幸司氏、清野百合氏、増尾徳行氏にお願いいたしました。十川氏には、FreudからLacan、そしてGreenへと至る流れの視点から、清野氏にはBionの視点から、増尾氏にはWinnicott、Bollasの系譜の視点から、狂気について語っていただきます。シンポジウムの導入と指定討論は館直彦が務めます。

このシンポジウムが狂気を通して、改めて精神分析を考え直すきっかけになれば幸いです。

みなさまのご参加お待ちしております。

シンポジスト:

「精神分析は狂気をどう扱ってきたかーフロイト、ラカン、グリーンをめぐるー」

十川 幸司(十川精神分析オフィス)

「私たちがときとして陥る狂気」

増尾 徳行(ひょうごこころの医療センター/上本町心理臨床オフィス)

「名づけられないものから理論へ、そして理論を越えてービオンと狂気をめぐる一考察」

清野 百合(パークサイドこころの発達クリニック)

討論:

館 直彦(たちメンタルクリニック)

司会:

石田 拓也(追手門学院大学)・筒井 亮太(たちメンタルクリニック/上本町心理臨床オフィス)

参加費: ¥3,000

申込方法: <https://forms.gle/knCB4HwxzfzSTpU6Z9>

上記URLもしくは右QRコードより、お申し込みください。

順に参加費の振込先のお知らせメールをお送りいたします。

申込締切: 2022年4月3日

お問い合わせ: たちメンタルクリニック/上本町心理臨床オフィス
uehonmachi.therapy@gmail.com

